

令和7年9月定例会

教育産業委員会資料
(教育委員会)

秋田市立学校設置条例新旧対照表

改 正 案	現 行																												
第1条 (略) 別表 <div style="text-align: center;">小学校</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">名 称</th> <th style="width: 70%;">位 置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>秋田市立土崎 小学校</td> <td>秋田市土崎港東一丁 目6番39号</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </tbody> </table> 中学校の表および高等学校の表 (略)	名 称	位 置	(略)		秋田市立土崎 小学校	秋田市土崎港東一丁 目6番39号	(略)		(略)		(略)		第1条 (略) 別表 <div style="text-align: center;">小学校</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">名 称</th> <th style="width: 70%;">位 置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>秋田市立土崎 小学校</td> <td>秋田市土崎港中央三 丁目1番78号</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>秋田市立土崎 南小学校</td> <td>秋田市土崎港東一丁 目6番39号</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td>秋田市立戸島 小学校</td> <td>秋田市河辺戸島字本 町123番地</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </tbody> </table> 中学校の表および高等学校の表 (略)	名 称	位 置	(略)		秋田市立土崎 小学校	秋田市土崎港中央三 丁目1番78号	(略)		秋田市立土崎 南小学校	秋田市土崎港東一丁 目6番39号	(略)		秋田市立戸島 小学校	秋田市河辺戸島字本 町123番地	(略)	
名 称	位 置																												
(略)																													
秋田市立土崎 小学校	秋田市土崎港東一丁 目6番39号																												
(略)																													
(略)																													
(略)																													
名 称	位 置																												
(略)																													
秋田市立土崎 小学校	秋田市土崎港中央三 丁目1番78号																												
(略)																													
秋田市立土崎 南小学校	秋田市土崎港東一丁 目6番39号																												
(略)																													
秋田市立戸島 小学校	秋田市河辺戸島字本 町123番地																												
(略)																													

秋田市立学校授業料等徴収条例新旧対照表

改 正 案	現 行
<p>第1条～第7条 (略)</p> <p>第7条の2 入学検定料は、入学又は転入学の願書を受理するときに徴収する。<u>ただし、入学に係る入学検定料は、必要に応じて後納させることができる。</u></p> <p>第8条 この条例によって納付した授業料、入学金および入学検定料は、これを還付しない。<u>ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。</u></p> <p>第9条 (略)</p>	<p>第1条～第7条 (略)</p> <p>第7条の2 入学検定料は、入学又は転入学の願書を受理するときに徴収する。</p> <p>第8条 この条例によって納付した授業料、入学金および入学検定料は、これを還付しない。<u>ただし、第3条ただし書の規定により前納した授業料については、この限りでない。</u></p> <p>第9条 (略)</p>

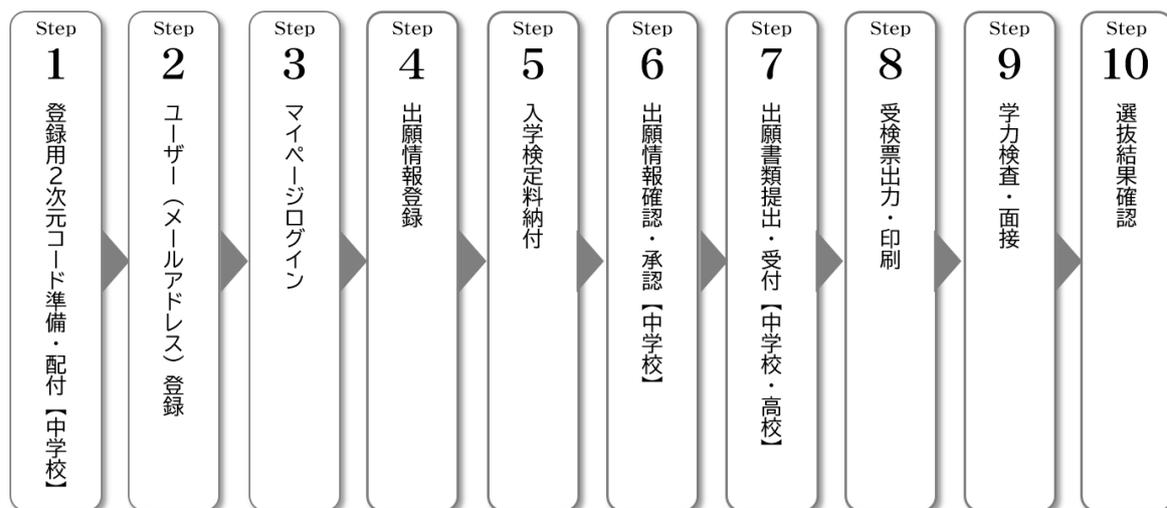
秋田市立学校授業料等徴収条例の一部を改正する件について

キャッシュレス決済の導入等に伴い、以下のとおり改正しようとするもの。

1 第7条の2関係 入学検定料のキャッシュレス決済の導入

県が、令和7年度に実施する公立高校入試からWEB出願システムを導入することに伴い、入学検定料の納付方法が、キャッシュレス決済になることから、願書受理後の納付でも可能となるよう改正するもの。

【WEB出願の手順】



2 第8条関係 国の臨時支援金制度に伴う納付済の授業料の還付

令和8年度からの高校授業料無償化の先行措置として、国が令和7年度限りの都道府県に対する補助制度「高校等臨時支援金制度」を導入したことから、県では「秋田県公立高等学校等高校生等臨時支援金実施要綱」を令和7年6月26日に施行したところである。

当該要綱の規定に基づき、学校長が令和7年度分の授業料相当額を代理受領することから、納付済の授業料を還付するため改正するもの。

教育産業委員会資料
令和7年9月22日
教育研究所

令和7年度全国学力・学習状況調査における 秋田市の結果について

令和7年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

● 調査概要 ●

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から継続して実施してきました。

今年度の調査は、令和7年4月17日に国語、算数・数学、小学校理科の教科に関する調査、令和7年4月14日から4月17日の期間に中学校理科の教科に関する調査が行われました。また、生活習慣や学習環境等についての質問調査は、小学校が令和7年4月18日から4月30日までの期間に、中学校が令和7年4月14日から4月17日までの期間に行われました。

● 本市調査結果の概要 ●

【教科調査の概要「全般」】

- ・小学校6年生1,984名、中学校3年生1,876名が参加しました。
 - ・小学校国語、算数、理科の内容や領域ごとの平均正答率は、理科の「エネルギー」を柱とする領域を除き、全国平均を上回りました。
 - ・中学校国語、数学の内容や領域ごとの平均正答率は、全ての領域で全国平均を上回りました。
 - ・中学校理科のIRTスコア（※）は全国平均を上回りました。
 - ・無解答率は、小学校では、全ての設問で全国平均を下回りました。中学校では、国語の1問、理科の1問を除き、全国平均を下回りました。
- ※ IRTスコア…IRTに基づいて学力を推定し、500を基準にした得点で表したものの(21ページ参照)

【教科調査の概要「国語」】

- ・小学校では、言葉と図を用いて説明した理由として適切なものを選択する問題の正答率は87%、資料を読み、時間的な順序を考えながら内容をとらえる問題の正答率は86%でした。
- ・話し合いにおける発言についての説明として適切なものを選択する問題の正答率は58%、話し合いにおける発言の内容として適切なものを選択する問題の正答率は44%でした。目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討することや、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることに課題があると考えられます。
- ・中学校では、案内文に会場図を加えた目的の説明として適切なものを選択する問題の正答率は83%、文章全体と部分との関係に注意して読み、登場人物の設定の仕方をとらえる問題の正答率は93%でした。
- ・スピーチで使用するスライドの工夫について助言する内容をまとめる問題の正答率は26%、文章の構成や展開の効果について、自分の考えとその理由を書く問題の正答率は19%でした。資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することや、文章の展開を踏まえて理由を書くなど、根拠を明確にして考えることに課題があると考えられます。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- ・小学校では、伴って変わる二つの量に着目し、問題を解決するために必要な事柄を選択する問題の正答率は84%、異分母の分数の加法の計算の正答率は82%でした。
- ・分数の加法について、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する問題の正答率は26%、適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は40%でした。分数の計算について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考察したり表現したりすることや、目的に応じて適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向をとらえることに課題があると考えられます。

令和7年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

- ・中学校では、必ず起こる事柄の確率を求める問題の正答率は80%、事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る問題の正答率は75%でした。
- ・連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるか、文字を用いた式の意味を読み取って説明する問題の正答率は28%、示された四角形が平行四辺形であることを証明する問題の正答率は35%でした。式を読み取り、見いだした事柄を数学的な表現を用いて説明することや、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題があると考えられます。

【教科調査の概要「理科」】

- ・小学校では、「結果」や「問題に対するまとめ」から、土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選択する問題の正答率は84%、おしべとめしべを選択し、受粉について書く問題の正答率は76%でした。
- ・3種類の金属について、それぞれの性質に当てはまるものを選択する問題の正答率は11%、適切な像にするための顕微鏡の操作を選択する問題の正答率は43%でした。金属に共通する性質の理解や、顕微鏡の操作の技能に課題があると考えられます。
- ・中学校では、実験から生じた「疑問」について、調べたWebページの情報だけを信用して考察してよいかを判断し、その理由を選択する問題（難易度2）の正答率は98%、火傷をした時の適切な応急処置を選択する問題（難易度1）の正答率は94%でした。
- ・資料から地層の広がりや推定し、他の地点での地層の様子を記述する問題（難易度5）の正答率は14%、「考察」をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題（難易度5）の正答率は15%でした。地層の広がりや検討することや、条件に着目して適切な実験を計画したり、予想される結果を説明したりすることに課題があると考えられます。

【児童生徒質問調査の概要】

〔自分自身について〕

- ・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」など、自分自身のよさを知り、向上心を持って生活している子どもの割合は、小学生では全国平均を上回り、中学生では全国平均と同じ値または上回りました。

〔人との関わりについて〕

- ・「人が困っているときは、進んで助けている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「友達関係に満足している」など、学校生活等において友だちや先生と良好に関わっている子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

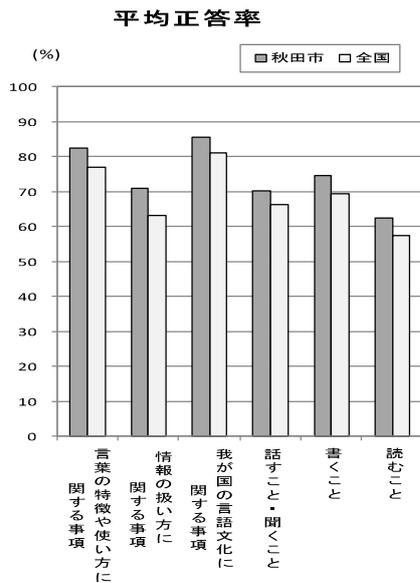
〔学習について〕

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている」など、主体的に学習活動に取り組んでいる子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。
- ・「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生が全国平均と同じ値、中学生が全国平均を下回りました。

〔家庭生活について〕

- ・「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」など、基本的な生活習慣や、家庭での学習習慣を身に付けている子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

小学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和7年度】



＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞ 問題 2

○「このみ (好み)」を漢字で書く問題の正答率は87%でした。

＜情報の扱い方に関する事項＞ 問題 1

○話し合いにおける記録の書き表し方の説明として適切なものを選択する問題の正答率は71%でした。

＜我が国の言語文化に関する事項＞ 問題 3

○資料を読み、経験をもとに気付いたこととして適切なものを選択する問題の正答率は86%でした。

＜話すこと・聞くこと＞ 問題 1

○インタビューにおける発言の目的として適切なものを選択する問題の正答率は77%でした。

- 話し合いにおける発言についての説明として適切なものを選択する問題の正答率は58%でした。目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討することに課題があると考えられます。

＜書くこと＞ 問題 2

- 言葉と図を用いて説明した理由として適切なものを選択する問題の正答率は87%でした。
- 調べたことをもとに詳しく書く問題の正答率は66%でした。目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。

＜読むこと＞ 問題 3

- 資料を読み、時間的な順序を考えながら内容をとらえる問題の正答率は86%でした。
- 話し合いにおける発言の内容として適切なものを選択する問題の正答率は44%でした。目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることに課題があると考えられます。【問題例参照】

【資料1】

(文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』による。)

【話し合いの様子】の一部

「A」と

田中さん

【課題となっている問題例】

3

三(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

4 3 2 1

【資料1】の 部 ④

【資料1】の 部 ③

【資料1】の 部 ②

【資料1】の 部 ①

正答 3

質問調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は得意だ」と回答した児童の割合は67%で、全国平均を6ポイント上回っています。

「国語の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は67%で、全国平均を9ポイント上回っています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は93%で、全国平均を3ポイント上回っています。



小学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、互いの立場や意図を明確にしながら話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、学び方の定着を図ったり、学び合いの場面における手立てを工夫したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、詩歌や物語、説明する文章の音読を通して、言葉や表現の持つ意味を確かめたり、場面を想像したりするなど、表現する楽しさを味わいながら学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、話し合いの展開をとらえ、自分の意見と比べてまとめることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「話すこと・聞くこと」については、目的や意図に応じて、聞くことを具体的に考え、関係する材料を整理するなど、伝え合う内容を検討することができるような指導の充実を図ります。

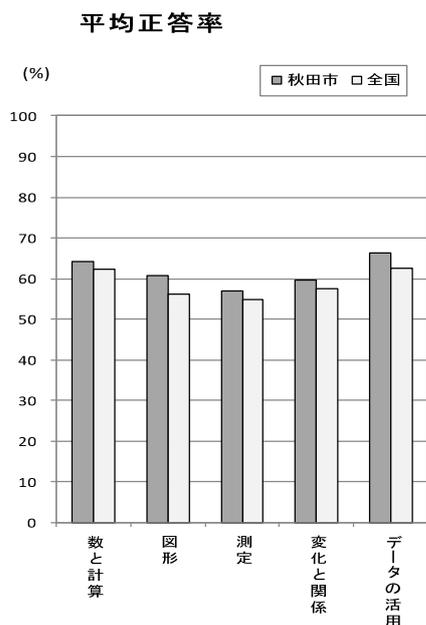
「書くこと」については、書いた文章を読み合い、読み手の立場に立って助言し合う活動を設定するなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるような指導の充実を図ります。

「読むこと」については、文章と図表を結び付けて読み、内容を整理する活動や図表が用いられている意図を考える活動を通して、読む力を高める指導の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

話し合いの展開や内容を踏まえ、互いの意見を整理し、根拠を明らかにして考えをまとめる活動を設定するなど、自分の考えを確かめたり広げたりすることができるような指導の充実を図ります。

小学校算数 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和7年度】



<図形> 問題 2

- 角をつくる2つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについて分かることを選択する問題の正答率は80%でした。
- 五角形を2つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を式や言葉を使って書く問題の正答率は45%でした。基本図形の面積の求め方をもとに、多角形の花面積の求め方を考察し、表現することに課題があると考えられます。

<測定、変化と関係> 問題 4

- ハンドソープが空になるまでのプッシュの回数を求めるために、ハンドソープの液体240mLの他に何が分かればよいかを選択する問題の正答率は84%でした。
- 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選択する問題の正答率は43%でした。示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題があると考えられます。

<データの活用> 問題 1 4

- 示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選択する問題の正答率は78%でした。
- ブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は40%でした。目的に応じて適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉えることに課題があると考えられます。

<数と計算> 問題 1 3 4

- 異分母の分数の加法の計算の正答率は82%でした。
- 分数の加法について、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する問題の正答率は26%でした。分数の計算について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考察したり表現したりすることに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 3

(2) ひろとさんは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2+1を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

※正答例は、紙面の関係で省略します。

質問調査から「算数の学習について」

「算数の勉強は得意だ」と回答した児童の割合は60%で、全国平均と同じ割合となっています。

「算数の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は61%で、全国平均を3ポイント上回っています。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は95%で、全国平均を3ポイント上回っています。



小学校算数「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、実生活と関連させた課題を設定したり、既習事項と関連させて問題解決の見通しを持つ場面を取り入れたりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、問題解決の過程を具体物や図、式を用いて分かりやすく表現しようと試みたり、自分の考えをペアやグループで説明し合ったりするなど、主体的に考え、学び合う子どもの姿が見られます。

一方、数学的な表現を用いて簡潔に説明することや話し合いを通して自分の考えを広げたり、深めたりすることが十分ではない子どもの姿が見られます。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「数と計算」では、小数や分数の計算の仕方について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法に帰着できるように統合的・発展的に考察する活動の充実を図ります。

「図形」では、図形を構成する要素に着目し、様々な図形の面積を既習の図形の面積の求め方に帰着させる過程を大切にした指導の工夫を図ります。

「変化と関係」では、示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を表したり、読み取ったりする活動の充実を図ります。

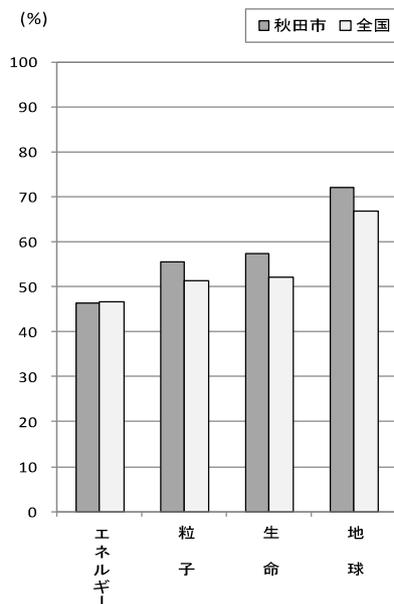
「データの活用」では、目的に応じて適切なグラフを使い分けながらデータの特徴や傾向を読み取り、自分の考えを表現する活動の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

図、式、グラフなどの数学的表現を用いることよさを実感できるような活動や、思考の過程を筋道を立てて説明する活動の充実を図ります。また、話し合う目的を明確にしたり、考え方の共通点や相違点に注目しながら比較・検討したりできるような手立てを講じるなど、子どもたちの学びが一層深まるような指導の充実を図ります。

小学校理科 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和7年度】

平均正答率



<エネルギー> 問題 2

● 3種類の金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかについて、それぞれの性質に当てはまるものを選択する問題の正答率は、11%でした。誤答のうち約8割が3または4を選択していたことから、「電気を通す」という金属に共通する性質の理解に課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 2

てつやさんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることができないか、話しています。



(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石にひきつけられない。

正答 アルミニウム 2
鉄 1
銅 2

<粒子> 問題 2 4

○海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選択する問題の正答率は72%でした。

●水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く問題の正答率は58%でした。観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに課題があると考えられます。

<生命> 問題 3

○へちまの花のおしべとめしべを選び、受粉について書く問題の正答率は76%でした。

●へちまの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選択する問題の正答率は43%でした。調節ねじを回してピントを合わせる操作の技能に課題があると考えられます。

<地球> 問題 1 4

○結果や問題に対するまとめから、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、その理由とともに選択する問題の正答率は84%でした。

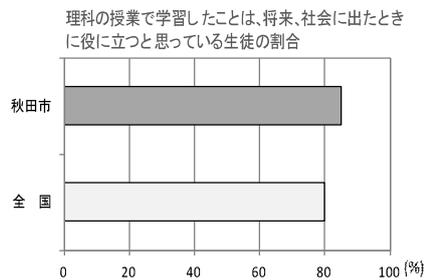
●水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選択する問題の正答率は63%でした。水が陸から海へと流れていくことの根拠について、理科で学習したことを関連付けて知識を概念的に理解することに課題があると考えられます。

質問調査から「理科の学習について」

「理科の勉強は得意だ」と回答した児童の割合は82%で、全国平均を4ポイント上回っています。

「理科の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は84%で、全国平均を4ポイント上回っています。

「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は85%で、全国平均を5ポイント上回っています。



小学校理科「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、目的に応じて器具や機器を操作する力、観察、実験の過程や得られた結果を適切に記録する力、自然の事物・現象に主体的に関わり問題を見いだす力、科学的に解決しようとする態度などがあります。

各校では、自然の事物・現象や日常生活に関連付けて問題を見いだす活動の工夫をしており、子どもたちは見いだした問題を解決しようとする意欲的に学習に取り組んでいます。また、観察、実験の器具の十分な確保や、動画等の補助資料の工夫により、子ども一人ひとりが主体的に観察、実験に取り組もうとする姿が見られます。

一方、実験結果をもとに他者と関わり合いながら考察し、より妥当な考えをつくり出すことについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「エネルギー」では、磁石の性質や電気の通り道で学習したことを、物質の種類ごとに整理してまとめるなど、物質の性質について理解を深める活動の充実を図ります。

「粒子」では、水の温まり方について、予想したことを確かめる実験になっているかを振り返るなど、計画した観察、実験が問題を解決する上で適切であったかを検討する活動の充実を図ります。

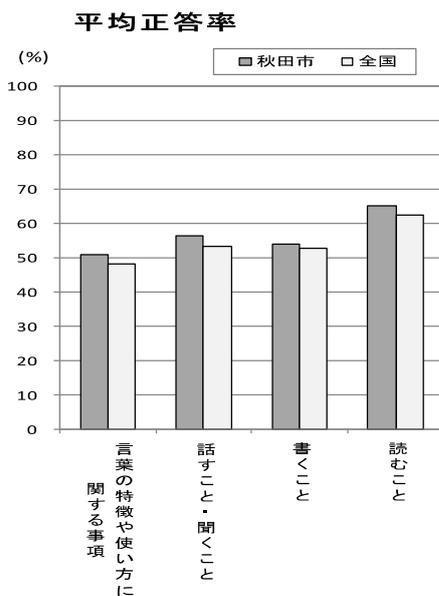
「生命」では、顕微鏡で適切な像にならない時の操作の方法を確認する活動を取り入れるなど、観察、実験に関する基本的な技能を身に付ける活動の充実を図ります。

「地球」では、水が陸から海に流れるなどの自然の事物・現象に対して、既習事項や生活経験から根拠のある予想や仮説を発想し、考えを表現する活動の工夫を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

各自の考察の妥当性について、グループで話し合った後に再検討する場面を設定するなど、他者の意見を自身の考察に生かす活動の充実を図ります。

中学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和7年度】



<言葉の特徴や使い方に関する事項> 問題 1 3

- 「かいしん（会心）」を変換した漢字について正しいものを選択する問題の正答率は38%でした。文脈に即して漢字を正しく使うことに課題があると考えられます。

<話すこと・聞くこと> 問題 2

- スピーチにおける発言の理由について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は81%でした。
- スピーチで使用するスライドの工夫について助言する内容をまとめる問題の正答率は26%でした。資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題があると考えられます。

<書くこと> 問題 1 4

- 案内文に会場図を加えた目的の説明として適切なものを選択する問題の正答率は83%でした。
- 読み手の立場に立ち、案内文に書き加える内容をまとめる問題の正答率は28%でした。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題があると考えられます。

<読むこと> 問題 3

- 文章全体と部分との関係に注意して読み、登場人物の設定の仕方をとらえる問題の正答率は93%でした。
- 文章の構成や展開の効果について、自分の考えとその理由を書く問題の正答率は19%でした。文章の展開を踏まえて理由を書くなど、根拠を明確にして考えることに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】

3
4

で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のおとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」の物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

（島崎藤村『二人の兄弟』による。）

ある朝、お爺さんが二人の子供に、「さあ、早く拾いにお出なさい、丁度いい時が来ました」と教えました。その朝は風が吹いて、榎木の枝が揺れるような日でした。（後略）

* 正答例は、紙面の関係で省略します。

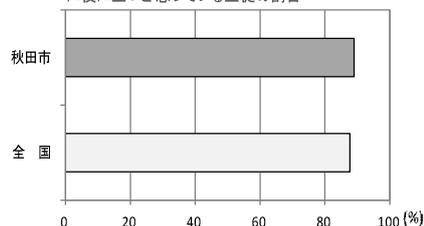
質問調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は得意だ」と回答した生徒の割合は52%で、全国平均を1ポイント上回っています。

「国語の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は61%で、全国平均を3ポイント上回っています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は89%で、全国平均を1ポイント上回っています。

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている生徒の割合



中学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、話題や展開をとらえながら話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、考えるための視点を明示したり、目的を明確にした学び合いの場を設定したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、話し方や聞き方、話し合いの仕方を振り返ったり、より分かりやすい表現になるよう吟味したりするなど、表現する楽しさを味わいながら、学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、話し合いの展開をとらえ、相手の意見を踏まえて質問したり、自分の意見と関連付けて述べたりすることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、文脈に即して漢字や語句の意味を考える活動を取り入れるとともに、話や文章の中で正しく使うことができるような指導の充実を図ります。

「話すこと・聞くこと」については、聞き手の立場に立ち、資料や機器の使い方について検討する活動を設定するなど、自分の考えを分かりやすく伝える力を高める指導の充実を図ります。

「書くこと」については、自分の考えとその根拠を適切に結び付け、事実や事柄を具体的に示して書く活動を設定するなど、目的や意図に応じて分かりやすく書く力を高める指導の充実を図ります。

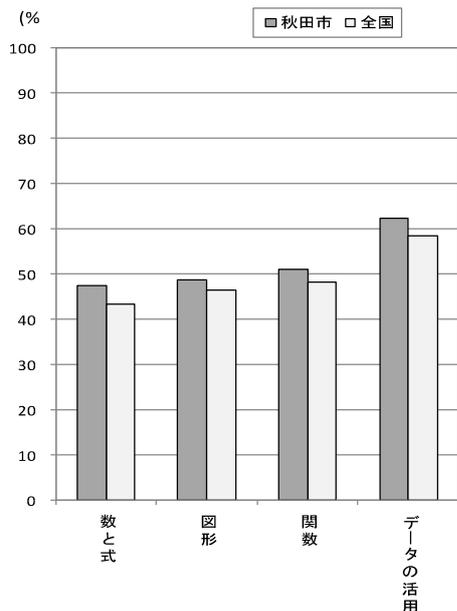
「読むこと」については、文章の構成や展開に着目して読み、その効果について考え、自分の考えをまとめる活動を設定するなど、読む力を高める指導の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

話し合いの目的や進め方について確認する場を設定したり、発言の内容や進行の仕方について振り返る活動を取り入れたりとするなど、話題や展開をとらえ、目的に沿って話し合う力を高める指導の充実を図ります。

中学校数学 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和7年度】

平均正答率



<数と式> 問題 1 2 6

●連続する2つの3の倍数の和がどんな数であるか、文字を用いた式の意味を読み取って説明する問題の正答率は28%でした。式を読み取り、見いだした事柄を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

【問題例参照】

【課題となっている問題例】 6

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

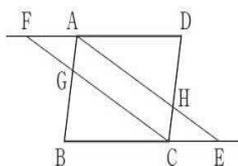
結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「は、……である。」という形で書きなさい。

【正答例】連続する2つの3の倍数は、奇数である。

<図形> 問題 3 9

●平行四辺形 $ABCD$ の辺 BC 、 DA を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E 、 F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G 、辺 DC と線分 AE の交点を H とした時、四角形 $AGCH$ が平行四辺形になることを証明する問題の正答率は35%でした。ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題があると考えられます。



<関数> 問題 4 8

○走行距離と運賃の関係を表すグラフから駅と駅間の走行距離を求めるためにグラフの何を読み取ればよいか選択する問題の正答率は75%でした。

●一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2の時の y の増加量を求める問題の正答率は38%でした。一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合をもとに、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題があると考えられます。

<データの活用> 問題 5 7

○Aのカードが3枚とも「ゲー」、Bのカードが3枚とも「チョコ」でじゃんけんカードゲームを行うとき、1回目にAが勝つ確率を求める問題の正答率は80%でした。

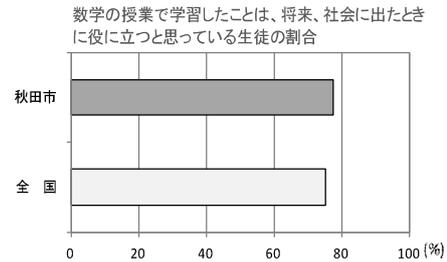
●ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める問題の正答率は46%でした。相対度数の意味の理解に課題があると考えられます。

質問調査から「数学の学習について」

「数学の勉強は得意だ」と回答した生徒の割合は45%で、全国平均を1ポイント下回っています。

「数学の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は56%で、全国平均を2ポイント上回っています。

「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は77%で、全国平均を2ポイント上回っています。



中学校数学「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、課題の提示の仕方や見通しの持たせ方や、子どもに自己選択させる手立てや学習形態を工夫しており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、具体物やICTを活用した操作活動を通して理解を深めたり、学び合いを通して友達の影響を取り入れ、よりよい考え方につなげたりするなど、主体的に学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、事柄が成り立つ理由を、構想を立て、文字式や言葉を用いて根拠をもとに説明することや、問題解決の過程や結果をもとに新たな課題を見だし考察することなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「数と式」では、文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明する活動の充実を図ります。

「図形」では、仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、証明する活動の充実を図ります。

「関数」では、具体的な事象の中から伴って変わる2つの数量の変化の様子を表、式、グラフを活用して数学的に処理し、その特徴を考察する活動の充実を図ります。

「データの活用」では、大きさの異なる複数のデータの分布を傾向を考察する活動を設定し、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて比較する場面を取り入れることを通して、相対度数の必要性和意味について理解できるような指導の工夫を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

数学における用語や記号の意味を理解し、数学的な表現を用いることよさを実感できるような活動や、図や表をもとに思考の過程を筋道を立てて説明する活動の充実を図ります。また、問題の条件を変えて共通する性質を見いだしたり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動を取り入れるなど、統合的・発展的に考察できる数学のよさを実感できる指導の充実を図ります。

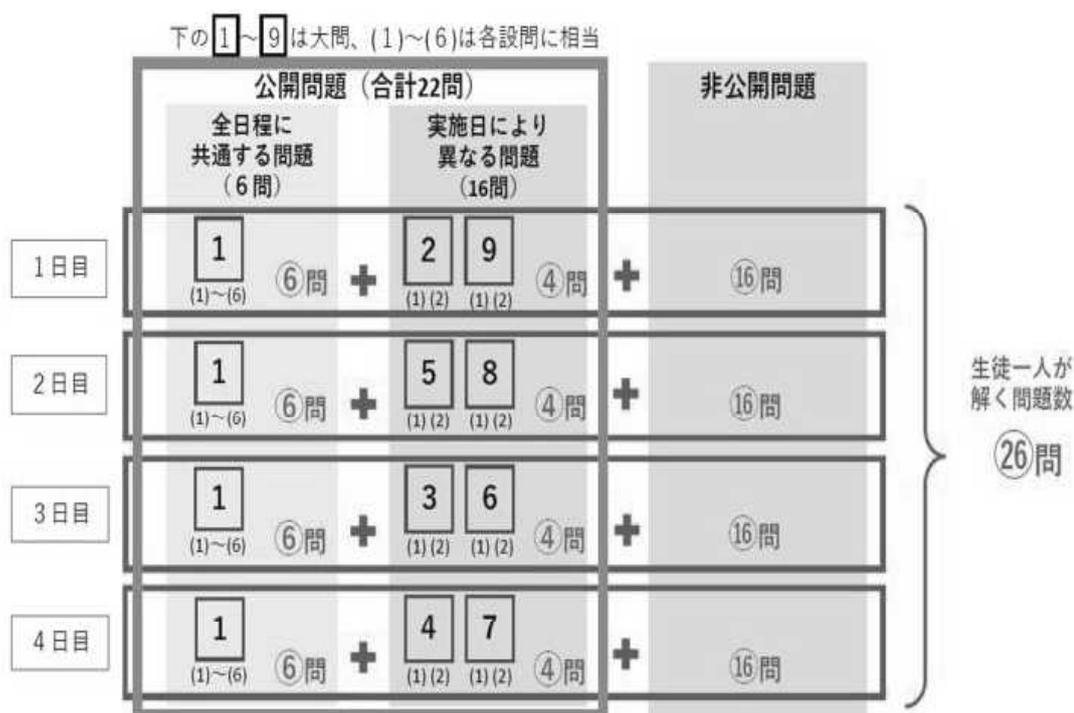
令和7年度全国学力・学習状況調査における中学校理科の調査について

● 中学校理科の調査の概要 ●

今年度から中学校理科の調査については、1人1台端末を活用したC B Tによるオンライン方式で実施されました。今回の中学校理科の調査では、C B Tの導入により、動画やカラー写真を用いて理科の観察、実験の場面が表現されています。また、解答方法も図やモデルの並び替えやホットスポット（選択肢に依拠せず、適切な場所をオープンに選ばせる方式）など、従来の解答用紙では採用しにくかった方式も活用することが可能となりました。

問題構成に関しては、公開問題と非公開問題を組み合わせた構成となっています。公開問題は全日程に共通する問題と実施日により異なる問題から構成されており、調査日が同じ場合、同一の公開問題が出題されます。また、非公開問題は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解くよう構成されています。生徒一人が解く問題数は、公開問題10問、非公開問題16問、合計26問でした。

令和7年度中学校理科のCBT問題の構成について



(出典) 文部科学省：「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会 4. 説明資料」

C B T化に伴い、中学校理科の調査については I R Tを活用した分析が導入されました。

中学校理科の調査における秋田市の結果については、問題の正答率に加え難易度も示しています。

IRTを活用したCBT方式の調査について

● CBTについて ●

CBT (Computer Based Testing) とは、問題をオンラインで配信し、コンピュータ端末を使用して回答を入力するなどのコンピュータ使用型調査のことであり、令和5年度に英語「話すこと」調査、令和6年度から児童生徒質問調査でCBTが導入され、段階的かつ計画的に進められています。

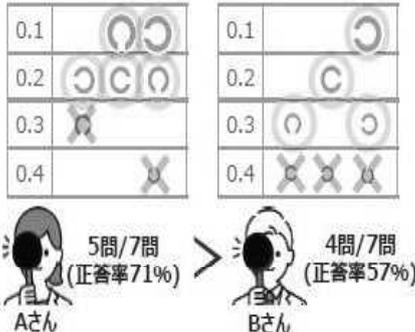
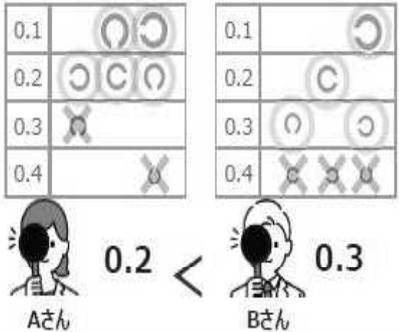
● IRTについて ●

IRT (Item Response Theory) とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。国では、IRTに基づく調査のイメージとして、視力検査を例に素点方式(正答数・正答率)とIRT方式を比較し、下図のように示しています。この図から分かるように、素点方式の場合は、Aさんの方が正答数(見ることができたランドルト環の数)・正答率が高くなりますが、IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア(視力)が高くなります。IRTを活用することで、何問正解したかという正答率だけでなく、「どのような問題に正解したか」という問題の難易度等を考慮して、子どもの能力値を推定することができます。

素点方式(正答数・正答率)とIRT方式の比較

視力検査を例としたイメージ

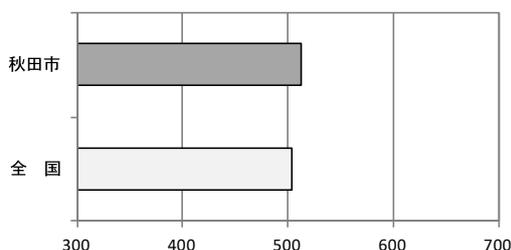
※イメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ(難しさ)がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式 (正答数・正答率)	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか	どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例		

(出典) 文部科学省:「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会 4. 説明資料」

中学校理科 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和7年度】

IRTスコア



<エネルギー> 問題 ① (1) ② ③

○ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する問題（難易度2）の正答率は98%した。

- 考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題（難易度5）の正答率は15%でした。変える条件に着目して適切な実験を計画したり、予想される結果を説明したりすることに課題があると考えられます。

<粒子> 問題 ① (2) (5) (6) ④ ⑤ ⑦

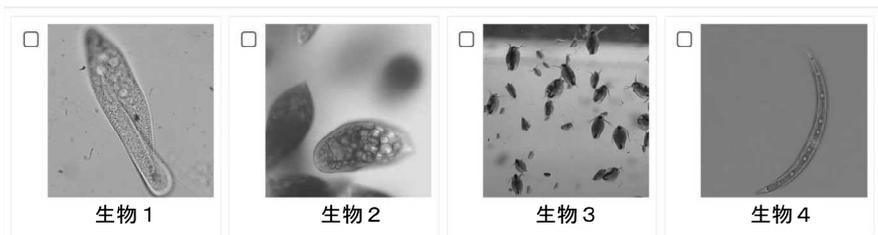
- 加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する問題（難易度1）の正答率は94%でした。
- 塩素の元素記号を記述する問題（難易度4）の正答率は48%でした。他の元素記号を記述することや、無回答が多いことから、塩素の元素記号についての知識の定着に課題があると考えられます。

<生命> 問題 ① (4) ⑥ ⑦

- 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する問題（難易度5）の正答率は62%でした。
- 4種類の生物の動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題（難易度5）の正答率は26%でした。動いている生物のみが呼吸を行うと考える解答が多いことから、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 ①

(4) 呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物1から4のすべてを選んでもかまいません。



☑ 正答 生物1、生物2、生物3、生物4のすべてを選択しているもの

<地球> 問題 ① (3) ⑧ ⑨

- 地層を構成する粒の大きさやすき間の状態から、重なった地層の境目から水がしみ出る場所を選択する問題（難易度5）の正答率は35%でした。また、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて地層の広がりや推定し、他の地点での地層の様子を記述する問題（難易度5）の正答率は14%でした。地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することや、断層や地層の傾きに着目して地層の広がりを検討することに課題があると考えられます。

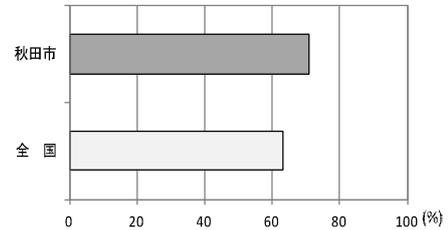
質問調査から「理科の学習について」

「理科の勉強は得意だ」と回答した生徒の割合は61%で、全国平均を10ポイント上回っています。

「理科の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は77%で、全国平均を13ポイント上回っています。

「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は71%で、全国平均を8ポイント上回っています。

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている生徒の割合



中学校理科「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、目的に応じて器具や機器を適切に選択して活用する力、観察、実験の過程や得られた結果を適切に記録する力、自然の事物・現象に主体的に関わり問題を見いだす力、科学的に解決しようとする態度などがあります。

各校では、事象提示をもとに一人ひとりが予想や仮説を考える活動や、検証するための実験を計画する活動など、課題の探究の過程を意識した取組を工夫しており、見通しを持って学習に取り組もうとする子どもの姿が見られます。

一方、グループ活動において実験結果をもとに仮説の妥当性を検討し考察することや、観察、実験が予想を確かめるために適切なものであったかを振り返ることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「エネルギー」では、結果から何が分かればよいのかを確認してから観察、実験を行うなど、見通しを持って探究に取り組むことができる学習場面の設定の工夫を図ります。

「粒子」では、物質やその変化を記述したり理解したりする際に、元素記号や化学式で表すことよさや有用性に気付くような学習活動の充実を図ります。

「生命」では、生物の観察で気付いた共通点や相違点を、生命を維持する働きなどと関連付けて考察する活動の充実を図ります。

「地球」では、小学校で学習した知識をもとに、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析、解釈する学習場面を設定するなど、既習事項を関連付けて、見いだしたことを説明する活動の充実を図ります。

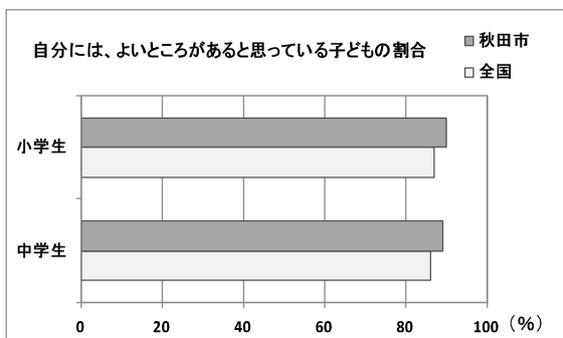
<本調査では測れない学力の状況から>

子どもの学習状況に応じて、考えを明確にするための助言や、話合いの視点を提示し、考えの交流や仮説の妥当性について話し合う活動の工夫を図ります。

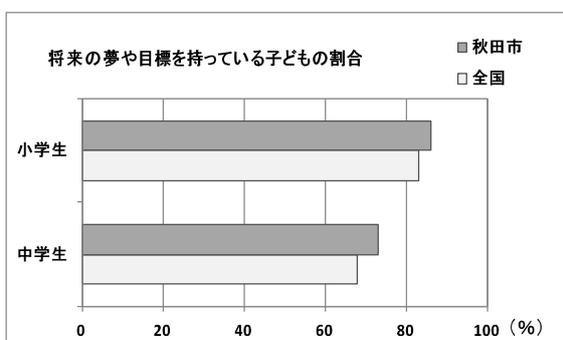
根拠を明らかにして結論を導き出したり、計画した観察、実験が予想や仮説を十分に検証するものであったかを振り返る活動の充実を図ります。

児童生徒質問調査の結果から【令和7年度】

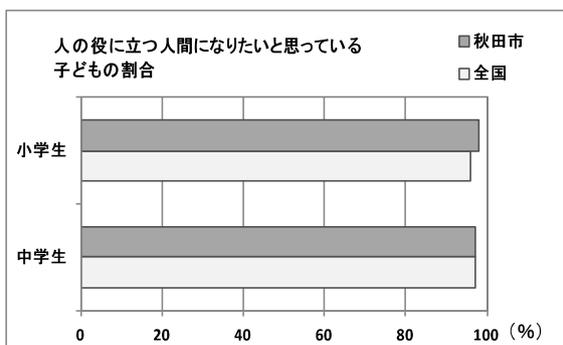
● 自分自身について ●



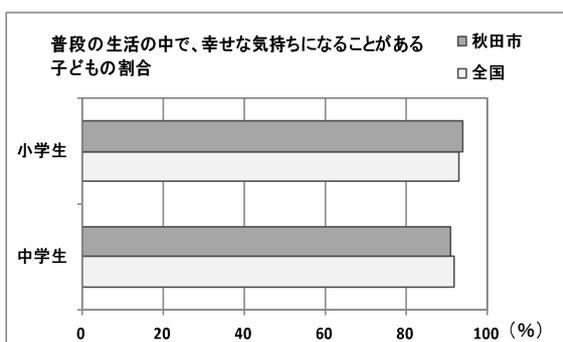
「自分には、よいところがあると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生で89%となっており、いずれも全国平均を3ポイント上回っています。



「将来の夢や目標を持っている」と回答した子どもの割合は、小学生で86%、中学生では73%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では5ポイント上回っています。



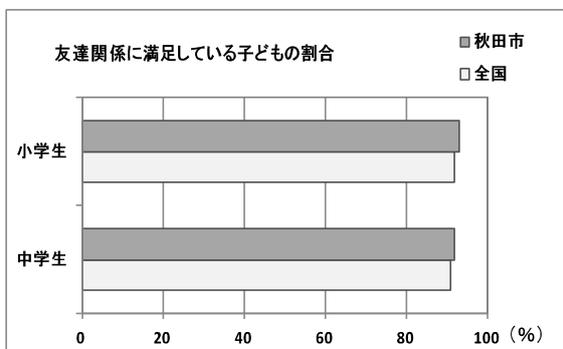
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で98%、中学生では97%となっており、全国平均を小学生は2ポイント上回り、中学生では同じ割合になっています。



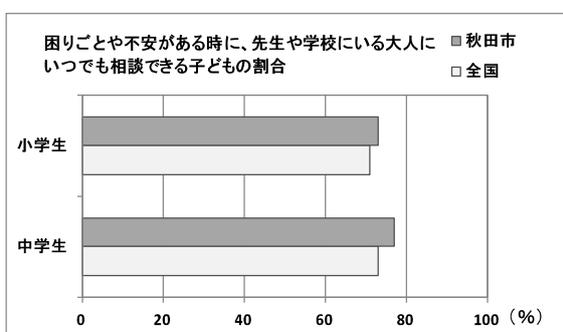
「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した子どもの割合は、小学生で94%、中学生では91%となっており、全国平均を小学生は1ポイント上回り、中学生では1ポイント下回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和7年度】

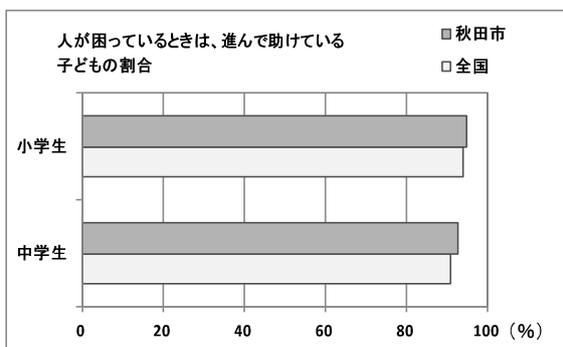
● 人との関わりについて ●



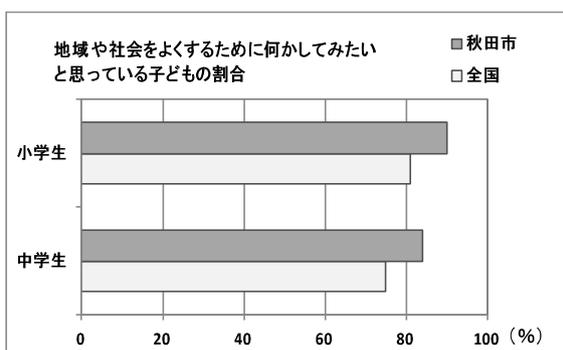
「友達関係に満足している」と回答した子どもの割合は、小学生で93%、中学生では92%となっており、いずれも全国平均を1ポイント上回っています。



「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した子どもの割合は、小学生で73%、中学生では77%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



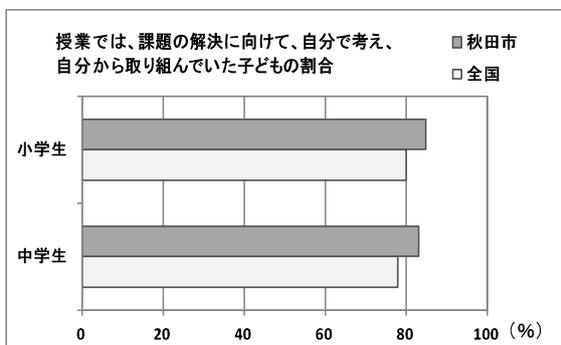
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した子どもの割合は、小学生で95%、中学生では93%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では2ポイント上回っています。



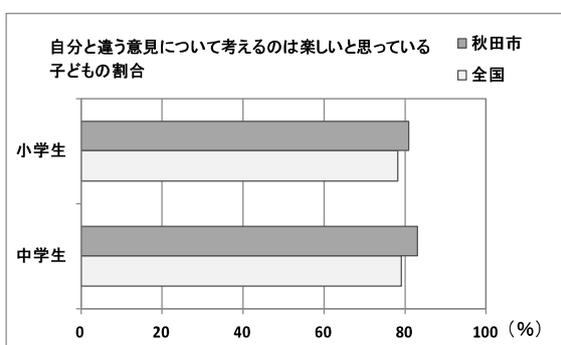
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では84%となっており、いずれも全国平均を9ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和7年度】

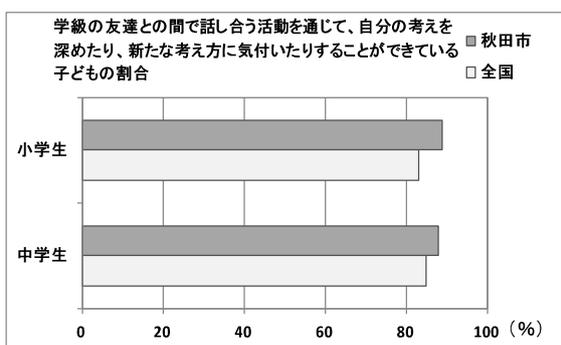
● 学習について ●



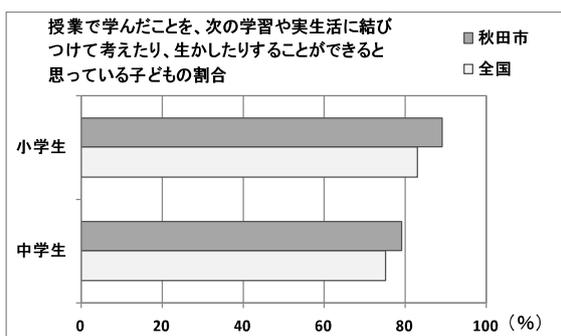
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では83%となっており、いずれも全国平均を5ポイント上回っています。



「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で81%、中学生では83%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



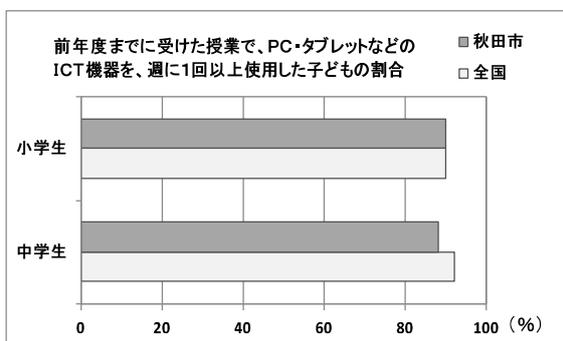
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答した子どもの割合は、小学生で89%、中学生では88%となっており、全国平均を小学生は4ポイント、中学生では3ポイント上回っています。



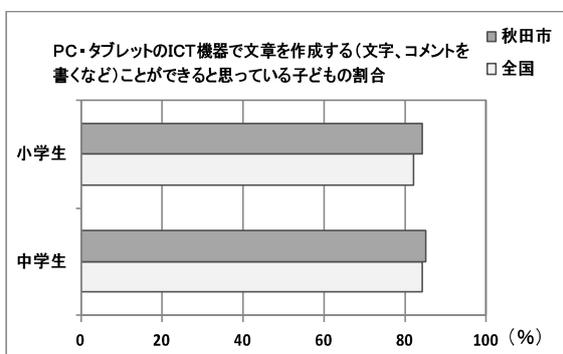
「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりできていると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で89%、中学生では79%となっており、全国平均を小学生は6ポイント、中学生では4ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和7年度】

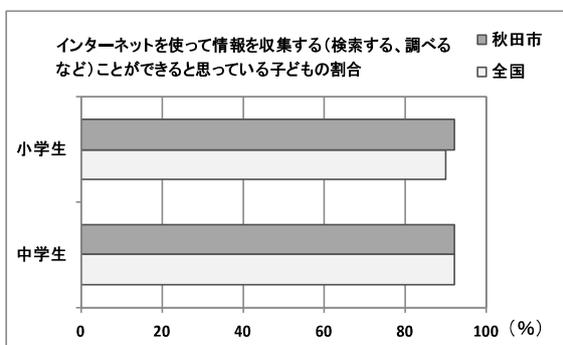
ICTの活用について



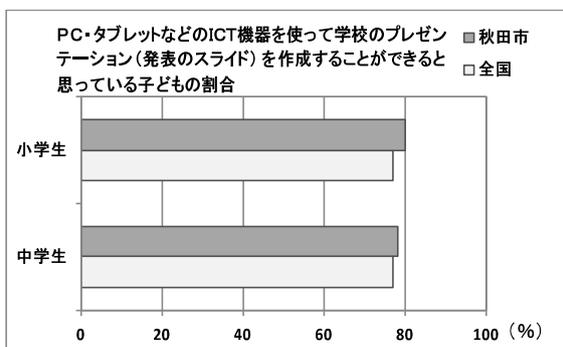
「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では88%となっており、小学生は全国平均と同じ割合、中学生では全国平均を4ポイント下回っています。



「PC・タブレットのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で84%、中学生では85%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では1ポイント上回っています。



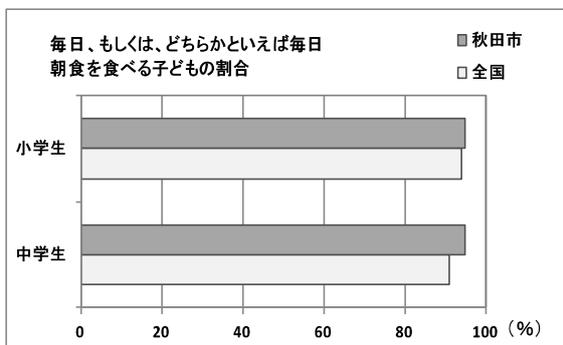
「インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思う」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に92%となっており、全国平均を小学生は2ポイント上回り、中学生では同じ割合となっています。



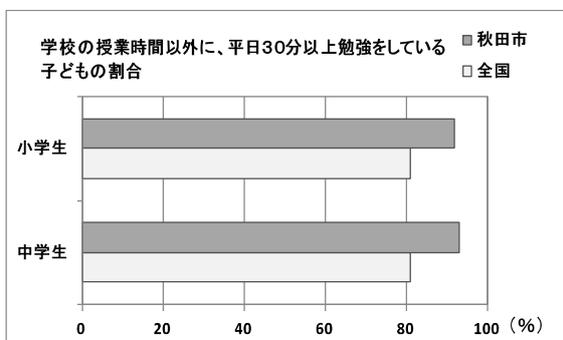
「PC・タブレットのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で80%、中学生では78%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では1ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和7年度】

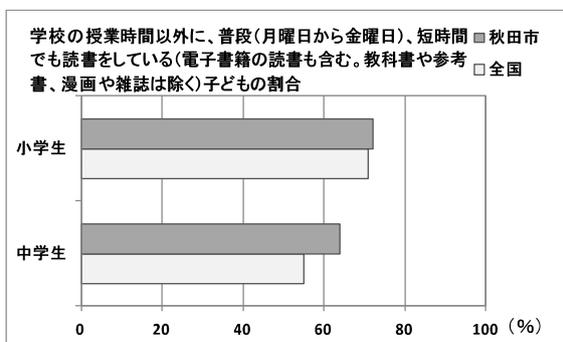
● 家庭生活について ●



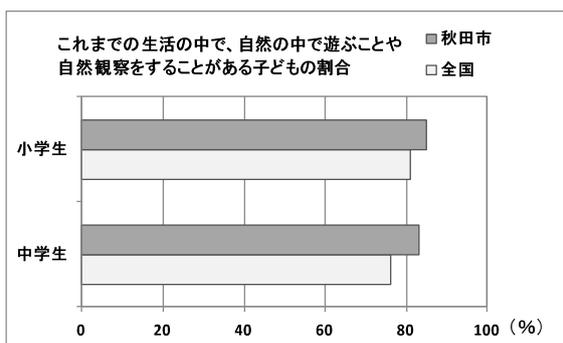
「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に95%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では93%となっており、全国平均を小学生は11ポイント、中学生では12ポイント上回っています。



「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、短時間でも読書をしている(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」と回答した子どもの割合は、小学生で72%、中学生では64%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では9ポイント上回っています。



「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では83%となっており、全国平均を小学生は4ポイント、中学生では7ポイント上回っています。

学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について

秋田市小・中学校適正配置基本方針に基づき、地域ブロック協議会において、学校統合の方向性（学校の組合せ）が決定した地域については、学校統合検討委員会で統合の可否を検討している。

また、検討委員会において、学校統合の合意が得られたところについては、学校統合準備委員会で、統合の実施に向けた具体的な準備作業を行っている。

1 地域ブロック協議会の開催状況等

(1) 第8回河辺地域ブロック協議会【7月30日(水)開催】

ア 主な意見等

- ・岩見三内小PTAで意見集約した結果、統合について明らかに反対する意見はなく、学年の児童数が1人となる3歳以下の子どもを持つ世帯にも意見を伺ったところ、統合に賛成であった。
- ・岩見三内中PTAとしては、統合検討委員会において統合の可否を検討する段階に進めても良いと考えている。一方で、地域には統合に反対の意見もあるため、引き続き、理解が得られるよう話し合いを継続したい。
- ・地域の視点からは学校がなくなるのは寂しいが、子どもが少ないために、みんなが体験してきていることができなくなる状況を踏まえると、河辺小と岩見三内小は統合するのが良いと思う。
- ・河辺地域ブロックでは、児童数の減少により単独でスポーツ少年団を維持することが困難となっており、学校の統合に賛成である。

イ 今回の協議会での確認事項

- ・岩見三内中と河辺中および岩見三内小と河辺小の組合せで、協議の第2段階となる統合検討委員会へ進めることについて、それぞれの所属団体で情報共有のうえ、意見集約し、次回、再度協議する。

2 学校統合検討委員会の開催状況等

(1) 第3回八橋小、寺内小学校統合検討委員会【7月16日(水)開催】

ア 主な意見等

- ・寺内小ではすでに単級が発生していることから、統合することにメリットがあり、前向きに検討していきたい。
- ・児童数の減少は緩やかであるため、統合時期については、児童のことを第一に考えて検討していきたい。
- ・これまでの協議では、令和12年度の統合を目途としており、地域としては統合に賛成の意見が大多数を占めている。

イ 今回の委員会での確認事項

- ・統合時期および使用する校舎については、今回の協議内容を踏まえ、各所属団体において意見集約し、次回以降、引き続き協議する。

(2) 第9回旭南小、旭北小学校統合検討委員会【8月18日(月)開催】

ア 主な意見等

- ・保護者の立場からすると、現状、旭北小の学校運営や子どもたちの学校生活に支障はないと感じており、年1回程度、学校の現状について情報共有を行い、児童数の推移を見守るのが良いと思う。
- ・旭南小PTAでは、現状の教育環境で困っていないため、統合を急ぐ必要はないとの意見があり、引き続き、児童数の推移を見ながら状況を確認し合うのが良いと思う。
- ・統合後の校舎よりも子どもたちの教育環境が重要であり、今後は、どのような状況になると統合が必要になるのかとの視点からも議論していくべきと思う。

イ 今回の委員会での確認事項

- ・本検討委員会は、児童数の推移や両校の状況などを確認しながら、年1回の協議を継続する。
- ・ただし、児童数の減少が急激に進むなど、状況に変化があった場合は、状況に応じて検討委員会を開催するなどの対応を行っていく。

(3) 第8回浜田小、豊岩小、下浜小学校統合検討委員会【8月28日(木)開催】

- ・前回の検討委員会での取りまとめを踏まえ、日新小の視察を行い、児童の様子や校舎、周辺道路の状況などを確認した。
- ・今回の視察結果やこれまでの協議内容を踏まえ、次回以降、引き続き協議を行う。

3 今後のスケジュール

(1) 地域ブロック協議会

開催日	地域ブロック協議会	地域
10月以降	第7回南部地域ブロック協議会	南部
	第9回河辺地域ブロック協議会	河辺

(2) 学校統合検討委員会

開催日	学校統合検討委員会	地域
9月26日(金)	第7回土崎中、将軍野中学校統合検討委員会	北部
10月以降	第4回八橋小、寺内小学校統合検討委員会	中央
	第10回旭北小、旭南小学校統合検討委員会	
	第9回浜田小、豊岩小、下浜小学校統合検討委員会	西部
	第7回秋田北中、飯島中学校統合検討委員会	北部

(3) 学校統合準備委員会

開催日	学校統合準備委員会	地域
10月以降	第4回築山小、中通小学校統合準備委員会	中央
	第5回飯島小、下新城小学校統合準備委員会	北部
	第11回土崎小、土崎南小学校統合準備委員会	
	第6回河辺小、戸島小学校統合準備委員会	河辺

※(1)～(3)の地域協議については、進捗状況により、順次、開催する。

(4) 記念式典

開催日	名称	会場
令和7年11月1日(土)	秋田市立戸島小学校閉校記念式典	戸島小体育館
令和8年2月21日(土)	秋田市立土崎小学校、土崎南小学校統合記念式典	あきた芸術劇場 ミルハス